

6年生有り難う！応援してるよ！



今年もまたこの季節がやって来ました。しかし、2月29日(土)開催する予定だった「6年生を送る会」。新型コロナウイルスの影響で、全体で集まるリスクを避け、急遽6年生と各学年という形に変え28日(金)に実施しました。参観を予定されていた保護者の方には大変心苦しく思いましたが、子どもの気持ちを最優先にして実施させていただきました。

例年のようにはできませんでしたが、精一杯練習を重ねて臨んだ各学年からの出し物は、6年生の心にきっと届いたことと思います。また、6年生の出し物は、これからの西部小を引き継ぐ5年生がしっかり受け止めてくれました。本校の掲げる「つなぐこころ」を体現した時間でもあったと思っています。



「6年生、これまでありがとう。そして5年生頼みますよ…」という思いとともに、令和2年3月18日、心に残る「卒業式」ができることを心から念じながら……。

最後まで **Coaching** 理論を大切に！

あっという間に今年度も最終月に。時の早さを感じる今日この頃ですが、時間が経っても忘れないものは本物だと思いこの話題を。再放送を含め3回は観たでしょうか？「もう一つのショパンコンクール」というドキュメンタリーが放映されていました。主役は、ピアノ演奏家

を陰で支える「調律師」。演奏家が最高のパフォーマンスができるよう、調律師がありとあらゆることを考え挑み続けた数日感を追った内容でした。知識に乏しい私は、「調律師は、音合わせの達人！」という認識しか持ち合わせていませんでした。ところが、そこで紹介されていた調律師の方々の仕事ぶりを見て驚愕。ホール全体への音の響き具合を出すために……などは当たり前。演奏曲にあった硬さや柔らかさを表現するためにハンマー部分にキリで穴を開けたり、小さな穴をミリ単位で塞いだり……。演奏家の最大のパフォーマンスを引き出すために、そこまでやるのかと。世界最高峰のコンクールなので当然？いやいや、それにしても……。世界こそ違え、私たちも斯く有りたいたいと思った次第。子供達のよさを引き出すための努力を、最後の最後まで！新学年に繋げるために！

*そのためにも、16日から学校が再開できますように願うばかりです！

3月の全校朝会での話

皆さんは、神社などの階段を登ったことがありますか？何段もの階段を登り終えて振り返ると、そこには雄大な景色が広がります。階段を登る前には見えていなかったものが、一段上がるごとに少しずつ見えてくるようになります。一段目より二段目が、二段目より三段目の方が、より沢山のものが見えます。

階段の場合は見えてくるのは景色ですが、これが学年ならどうでしょう。学年が一つあがると何が見えてきますか？それは「人の心」です。前の学年では見えていなかった、友達の喜びや悲しみの心が見えてきます。上の学年になればなるほど、それが沢山見えてくるはずですが、それが見えるようになれば、一緒に喜んだり手伝ってあげたりすることができます。学年が上がると言うことは、体が大きくなるということではありません。沢山の心が見えるようになるということ。今のあなたは、周りの人達の心がどれくらい見えていますか？あと1ヶ月で学年が上がります。今より、もっと沢山の人の気持ちが分かるようになることが、本当に上の学年に上がったということ。



(右上へ↑)